

親子聖書日課

NO.1855 2024.4/14-20 名前

[日]ヨブは絶望の中で、死を求めたほど追い詰められました。彼が欲したのは、友人の同情と理解でしたが、友人は慰めるところか、戒めます。しかし、主は違います。ただ慰めるだけではなく、命を捨てて愛して下さいました。主に希望があります。

[月]「死にたい。ほっといてくれ」とヨブのように言う人はいませんか。しかし、人は神に造られた故に、どんな苦難に遭っても、命の尊厳は取り去られず、神に覚えられています。主は「朝ごとに訪れて」助けて下さいますから、主を心に迎えましょう。

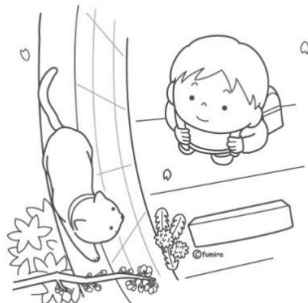
[火]ビルダドは神に信頼し続けるなら、神は正しい者を回復されると説きます。「過去は小さなもの、未来は非常に大きくなる」は事実です。後にヨブの病いを癒し、多くの財産を与えます。苦しみの中でも主に信頼するなら、祝福が与えられます。

[水]ヨブは神の全能は認めますが、神の前に人間はなす術がないと諦めました。神と人との間の「仲裁者」がいないと嘆きます。しかし、私達には「神と人との間の仲介者」である主がおられます。主に相談すれば、全てのことが解決します。

[木]ヨブにとって、神は不平不満や疑問も訴えることができるほど身近な存在でした。模範生でなければ、神に近づけないのではありません。私達が弱く、失敗した時、あるがままの姿で神の前に出ることを喜んで受け入れ、力づけて下さるのです。

[金]「神に向かって手を差し伸べるなら」と、三人目の友ツオファルの教えは正解でしたが、苦しむヨブを助けることはできません。大切なことは「神に向かって手を伸ばせる」ように、その人と共に神を見上げることです。「人生は真昼よりも明るくなる」

[土]「神に従う無垢な人間が物笑いとなり、神を怒らせる者は安泰」とは、矛盾だらけの社会です。信仰は、社会の矛盾に目をそらすことでも、通り一遍の理論で片づけることでもありません。その矛盾に苦しみつつ、神の解決を求めることです。



	聖書	問題	答え
日	ヨブ記 6:1-30	絶望している者にこそ友はどうあるべきですか。	
月	7:1-21	主はいつ訪れて確かめ、絶え間なく調べられますか。	
火	8:1-22	未来のあなたは非常にどうなりますか。	
水	9:1-35	神に対してどうでありながら、なお無傷でいられますか。	
木	10:1-22	二度と帰って来られないのは、どんな国ですか。	
金	11:1-20	人生は真昼よりどうなりますか。	
土	12:1-25	力も策も誰と共にありますか。	
感想と祈りの課題			